

- 日 時 : 平成 30 年 2 月 26 日 (月) 午前 10 時～午後 11 時 36 分
- 場 所 : 武蔵野総合体育館 視聴覚室
- 出席者 : 渡邊 大輔、堀口 裕恒、小美濃 妙子、岩岡 由美子、酒井 陽子、
崎山 良太、方波見 美穂、岡田 宏之 (敬称略)

1 開会

【事務局】 これより平成 29 年度第 1 回武蔵野市シニア支え合いポイント制度推進協議会を開催いたします。

2 会長挨拶

【会長】 このシニア支え合いポイント制度は、よくボランティアポイント制度と呼ばれておりますが、今、厚生労働省が新しい総合事業を推進する中で推進されていまして、実施する自治体が増えています。ただ、実際には増えているものの、それを各状況に合わせて効率的かつ効果的に動かすということについてはまだまだノウハウが足りていない現状もあります。この協議会では、ぜひこの武蔵野市の状況というものを踏まえ、武蔵野市に合った制度を円滑に運営し、また今後より発展させていくための議論ができればと思っておりますので、本日もどうぞ皆様のお力添えをいただければと思います。

3 健康福祉部長挨拶

【健康福祉部長】 今年度、健康福祉総合計画を策定してまいりました。各個別計画も策定してまいりましたけれども、地域福祉なり介護、看護を支えていただく人材をいかに確保するかということが、どこの健康福祉分野の計画でも大きな課題となっております。そこで、シニア支え合いポイント制度が裾野を広げるという意味、また地域福祉やこのような活動へのインセンティブを与えるという意味で非常に効果が高いということで、それぞれの計画に位置づけられたわけでございます。

武蔵野市では平成 20 年度から施設介護サポーター事業を実施をしていますが、新しい提案として 3 日間にわたる研修を受けている施設介護サポーターもシニア支え合いサポーターになれるということにすれば、施設でサポーターとして働いていただいている方も、

施設のご負担も軽減されて、みんなウィン・ウィンになるのではないかといったことを提案させていただきます。来年度から拡大実施の時期に入りますので、本日改めて見直しを行うためお集まりいただきました。

ぜひ武蔵野市の地域福祉あるいはシニア支え合いポイントが大きく前進するように、皆様の忌憚のないご意見を賜われればと思っています。

4 議事

(1) 平成29年度事業実績報告

【会長】 議事(1)「平成29年度事業実績報告」について、事務局より説明をお願いいたします。

【事務局】 事務局より資料1「平成29年度事業実績」について説明。

【会長】 登録者数についてです。昨年は初年度ということもあり、恐らくある程度多かったと思います。今年度は1年で45名増加した形なのですが、この要因について、何かお考え等、あるいは確認したことがありましたら、ご説明をいただければと思います。

【事務局】 28年度は初年度というところもございましたので、注目度も高く、参加者の方も多かったのではないかと考えております。今年度は、少し落ちついて、1回当たりの説明会の参加者が大体7~8名というところで落ちついたと考えており、この制度自体のPRにも努めていきたいとは思っているところでございます。

【会長】 減ったことをどのように捉えるかという点はかなり重要で、来年度の事業計画等にどのように反映させていくのかという点が重要であるので、ぜひそこはまた後ほどしっかり議論ができればと考えております。

【委員】 65歳以上が登録可能となっていますが、最高年齢は何歳が登録されているかわかりますか。

【事務局】 大体80代後半の方です。

【委員】 高齢の方には、戦時中の話を好まれる方が多いんです。話相手として65歳だと、少しわからない。80代前後の世代は中島飛行場の爆撃が多かったといったことや疎開の話をこちらから話すと、話したがる方が多いので、年配者のボランティアは、話し相手としては必要だと思います。

【委員】 その話し相手でもポイントはついていきますか。

【委員】 はい。なかなか溶け込まない方は、大体そういう昔の仕事を話しか

けると積極的に話してくれる。認知症に少しかかっているけど昔の話はよく覚えていて、ある程度の年齢の方のほうが話には加わりやすいと思います。

【会長】 ご経験に根差したご意見、とても参考になるかと思います。やはり年齢よりも、何ができるか、あるいは何がそこで求められているかということがとても大事だということがわかるかと思います。

【委員】 昨年度は、既にボランティアをしている方にポイントを付与することや、制度上の理解度の低さ、混乱ということがかなり議論になっていたところなんです。29年度は、そのあたりの参加者の混乱というのはありましたか。

【事務局】 事務局にこの制度がわからないという話はいただけてはいないと思っています。

【会長】 研修会を180分から120分に短縮したことによる効果、影響、あるいはやりやすさ、やりにくさといったものはどのように変化したのかということについてご説明をいただければと思います。

【事務局】 短縮したことによって参加者の方のご負担は減ったというところはありません。説明する要点を絞るようにしまして、補足説明を配布資料でさせていただきました。

【会長】 やはり3時間だとなかなか参加を躊躇される方もいらっしゃるかもしれないので、時間を短くしてメリハリをつける努力をしていただければと思います。

では、議事（1）「平成29年度事業実績報告」についてはこれまでにします。

（2）平成30年度事業計画（案）

【会長】 次に、議事（2）「平成30年度事業計画（案）」につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

【事務局】 事務局より資料2「平成30年度事業計画（案）」について説明。

【会長】 ぜひ皆様から、確認それから質疑、場合によってはご提案等をいただければと思います。

【委員】 施設の受け入れ態勢が各施設によってばらつきがあるのが現状です。ボランティアを受け入れる専門性の高い職員をきちんと配置しているところもあれば、直接介護の方が兼務している場合もあります。また本来職員が行う内容を補完する形でボランティアが入っているなど、受け入れる施設側の負担を懸念をしています。

先ほどの見直し案で、ポイント手帳の保管を自分がするのか施設がするのかという話が

ありました。またボランティア保険とポイント還元で3月、4月と何回も窓口に行くのは大変だという話がありました。後半のポイント還元とボランティア保険については、事務的な手続なので、活動する方たちにとって便利なように申請場所も増やし、1回で済むようにすることは、非常に重要だと考えます。しかし、ポイント手帳を施設で預かることについては、施設の大変さも含めて、どのような現状で、それがよいのでしょうか。

【事務局】 原則ご本人が保管、管理していただくという考えです。

【委員】 研修をする場所ですが協力施設・団体で行うことはこれから実際に活動する場所ということで、非常に効果的と思いますが、ほかの公共施設で行うことは気軽な感じがしません。コミュニティセンターで実施しない理由を教えてください。コミセンの運営委員利用者には、もちろんお若い方もいますが、制度に該当する年齢の方たちが多くいます。そのため、周知が自動的に口コミでできるのではないかと。また、会場に行きやすいのではないかと思います。

【事務局】 研修をする施設は公共施設であれば全く初めての人でも集まれるのではないかと。ところもあり、協力施設と公共施設の両方で実施しています。また、コミセンを会場として、車いすを動かすスペースがあるか等開催ができるかどうかは研究してまいります。

【会長】 先ほどの委員からのご質問で、施設側の体制や負担と、手帳の保管の問題をどう考えるか、なぜそれがもめるのかということなのですが、珍しい話ではないです。特に市の境にあるところではこういった問題がよく起きます。長い経験をしてしっかりとボランティア団体がその施設を支えている場合にはよくよく起きる話です。

理由が2つあります。市の境にある場合は、そもそも市民以外のボランティアの方が多い。ですが、例えばこのボランティア手帳は、残念ながら武蔵野市民かつ65歳以上にしか発行されないということがあるので、同じ施設で同じようにこれまでボランティアをやってきた人で、ポイントをもらえる人ともらえない人がいるという状態を作りたくないと思います。さらに重要なのは、ボランティアは、施設側がお願いをしているので、本人にメリットがあっても、そこに新たなお願いを伝えたくないと言う場合が結構多いです。

これは皆さんが納得して動いていくものなので、施設とかこれまでのボランティアの経験や状況で変わってくるので、皆様が納得できる形で進めていけばいいのかなと思います。

また、行政としては、西東京市とか小金井市はほぼ同時期に同じような仕組みを入れていますので、場合によってはうまく連携をすればこういった問題はクリアできるのかなと

思っています。

ただ、手帳の保管は、責任の問題ですので、自己管理をお願いしてもいいと思います。

今の論点が重要なのは、施設側の体制というよりは、施設側の負担をどう下げるのか、あるいは、施設側にボランティア担当のスタッフの方がいないところも多くありますので、そういったところに何らかの支援ができる仕組みがないのか。特に小さい施設は大変なので、議論していく必要があると思います。

【委員】 北町高齢者センターも実は3分の1ぐらいは保管しています。北町高齢者センターは独特で、ボランティアが中心で立ち上げてできた施設から介護保険に移ったという経緯があるので、ボランティアの力が強い本当にいろんな方がいらっしゃって、先ほど言っていた職員の負担のところ、どのように皆さんに同じように理解してもらえて、かつ活動してもらえるかというのがすごく大きな課題になってきています。

【委員】 ポイント手帳を置くコーナーがあればいい。特に男性の場合はハンドバッグだとか入れ物を持たない。そういう面では、スタンプを押すだけだったら小さいのにしてもらいたい。内容が書いてあるのは冊子でもらって、スタンプだけ小さいカードにしてもらえればいい。私も、またほかのところにも思っているんですけど、それを持って毎回行くというのは大変です。

【委員】 施設ではなくて福祉の会で支え合いサポーターになっている方は皆自分で管理しなければいけないので、つつい忘れてしまうことが多いです。忘れると、ポイントを押していただけない。この制度に登録をしたんですけども、忘れることが多いので、もう初めからカードは持っていないという方もいる。ちゃんと持ってくる方は押しもらえるけれども、自分は押しもらえないということになる。福祉の会の人たちは管理はしてもらえない、自分が管理しなければいけないことはわかっていて、自分のミスで持っていないのなら、初めから持っていきませんという方が多々いると聞いている。

【委員】 私は福祉協議会に寄付するので、スタンプをもらえれば寄付できるんです。ポイント手帳を持っていかないと寄付もできないから、なるべくだったらスタンプをもらったほうがいいという考えでやっている。

【会長】 この問題は、恐らく形状の問題もありますし、あとは慣れの問題が結構大きいと思います。市としては、保管に関してルールを規定しているわけではないんですか。

【事務局】 ルールを規定している訳ではない。しかし紛失した場合どうなんだというところはあります。説明会の中で参加者に対してはご自分で保管をしてくださいというお

願いをしております。

また、こちらのほうから協力施設・団体をお願いしていることは、一点目に活動受け入れの調整、コーディネート、二点目にポイント手帳へのスタンプ押印、三点目に受け入れ実績の管理及び報告を施設側をお願いしています。

【会長】 これではわざわざ電子化してカードを入れるとか、そういう無駄なお金を使う必要はないと思いますので、より効率的かつコストが安い、かつサポーターができるだけ楽な形でできる方法を、今後も皆さんと知恵を出していければと思っております。

【委員】 2年目の登録者が、誰を頼りに何をすればよいかははっきりしていないと思う。拡大実施期に入るのであれば、例えば、各施設でどんな活動があるかを明確に示す必要がある。

ポイント制度をいきいきサロンなどで充実させていくということになると、その中身のほうにも並行して手を入れていくような進め方を実際にやっていく必要がある。

【会長】 今の委員のご意見で、協力施設・団体一覧には、何をやっているか主なところは書かれています。しかし、具体的にまだ見えてこないところは確かにあります。今後の宣伝としてどのようにやっていくかはかなり重要な課題だと思います。

また、いきいきサロンに今後協力を依頼していくと思いますが、こういった形の依頼を考えているか事務局に説明をいただきたい。

【事務局】 どの施設で何をやっているかということは、協力施設・団体一覧とニュースレターで周知しております。

いきいきサロンは、参加者の方が運営側に回るということもあるので、そういったところも含めて、いきいきサロンでもやっていただけたところがあれば、協力を依頼したいと思います。

【委員】 現状は福祉関連施設が協力施設・団体として非常に多いんですが、できれば福祉施設だけではなくて、自治組織の運営等を行っている方にもポイントをあげることはできないか。それを通してで地域の活性化が図れればと思います。

また、自治会の活動は1日がかりのものになりますので、2ポイントだけじゃなくて、例えばそのイベントに協力したら4ポイントつけるなどの裁量があればいいと思います。

【会長】 ポイントの上限もですが、それ以上に付与対象活動の範囲を広げるという部分について、福祉活動以外にそれをどこまで広げていくのかといった点があります。現段階で事務局に考えはありますか。

【事務局】 制度を拡大していく中で福祉以外の施設へ広げていくことは適当であると考えている。

【会長】 雪かきにもポイントを付けても面白いと思います。要は雪かきをイベント化して自分の家の周りだけじゃないところの雪かきをしても問題がないということ、ある種イベントにしてやってみても良いかもしれない。

【委員】 新規に登録をする方が、活動中のサポーターから楽しみや悩み、課題などを聞く機会があるといいのかなと感じています。

会長がおっしゃったように、イベントとして楽しめるものに進めていっても面白いと思います。

【事務局】 ニュースレターをサポーター宛てにこの年度末発行します。現サポーターの活動内容の記事をのせて、動機づけとして発信できればと考えております。

あと1点、今、サポーターに関してはボランティア保険に加入していただいております。自治活動に関しましてはこのボランティア保険の適用範囲がかなり限定的になっており、自治会の内部の活動というのが対象外です。その自治会の活動が外向き、要はボランティアの要素を含んでいるものに関してはボランティア保険の対象になりますので、加入保険に関して精査していく必要があると感じました。

【会長】 この制度は、ポイントを寄付できますが、寄付したら何が起きたかが見えづらい。どこで使われて、どう変わったかが数字でわかると、来年も寄付しようという気になると思う。こういうことが積み重なると、武蔵野市らしい寄付文化が醸成していくと思います。

研修方法について、認知症サポーター養成講座のような仕組みはとれないかなと思っています。あの仕組みは、5名以上が揃うとサポーター養成講座を出前で行うことができる仕組みになっています。シニア支え合いポイント制度もある程度人数が集まるのであれば、出張して説明会を開催するなど柔軟な対応をとっても良いのではないかと思います。

【相談支援担当課長】 施設介護サポーターもかなり課題が多くありまして、来年度から見直しをかける予定です。施設介護サポーターも、活動が多岐にわたっておりまして、シーツ交換のようなことから食事介助、イベントの手伝いなどがあります。何をやっていただくかの情報提供や、養成講座に関しても、どんなことを最低限やっていくかということ、市としても一緒に考えていきたいと思っています。その中にシニア支え合いポイントの講座や認知症サポーターの講座も組み込んでいけるかなと思っています。

【会長】 この協議会の任期がこの3月までとなります。本日が恐らく最後の協議会となりますので、ぜひ皆様から一言ずつご挨拶をいただければと思っております。よろしくお願いたします。

【委員】 すごく市民に近い制度で、話す内容もかなり具体的なものだったので、とても有意義な協議会であったと感じています。シニア支え合いポイントをきっかけに活動に参加し、その後スキルアップをし、80代後半まで元気に頑張れたら、それは本当に長生きしてよかったなということになるんだろうなと思いました。本当に2年間どうもありがとうございました。

【委員】 私は特養でボランティアをやっており、碁と将棋とマージャンができますが、自分が行っている場所以外でどのような活動が対象となっているかが分からないのが現状です。他の協力施設から声がかかれば行くということができるんですけども、自分のところからどこへ行けばいいかわからない。そのため、各協力施設・団体でどのような活動が対象となっているかを明確にしてくれると活動の幅が広がると思います。

【委員】 ボランティアというのは本当にいろんな方がいらっしやって、ただ、いないと困るし、かといって大勢いると、またそれも問題があって、毎日切磋琢磨しながらさせていただいています。

やはり地域の方と一緒にやっていくのはすごく大事なことで、近所の方の情報などはボランティアさんから多くいただけますし、ご利用者さんも、職員には言えないけれどもボランティアさんにはぼそつと言うということがあります。それぞれの役割がありながら、みんなで支え合っていく方法として、シニア支え合いポイント制度ができて、それがきっかけとなる流れができたことはすごくいいことだと思います。課題はこれからあると思いますが、そのきっかけに関われてすごくよかったなと思います。どうもありがとうございました。

【委員】 私の施設は協力施設になっていますが、来てくれた方にどう楽しんでもいただくか、やりがいを持っていただくかということが非常に課題かなということに気づくことができました。今後そういったところを施設側としても検討させていただいて、この制度がどんどん浸透していくように取り組んでいきたいと思っています。2年間ありがとうございました。

【委員】 本協議会に出て、お話を聞くことの大事さがよく理解できたかなと思います。というのは、自分の地域にいと、その地域のことしか知らないんです。いきいきサロン

も、地域で事例を1つ2つは理解しているけれども、その他地域の残りの十何カ所は全く何をやっていらっしゃるのかよくわからない。そういう意味では、ニュースレターが出ていくことも大事だし、1年間のそれぞれの具体的な活動報告などに目にとまるように工夫していくことはものすごく必要だなと思いました。

シニア支え合いサポーターが、他のサポーターの話や普段の活動場所ではない施設の話聞く機会を年に1回でも設けられれば、興味のある人は参加されるんじゃないかなという気が強くしました。本当にありがとうございました。

【委員】 私は赤十字奉仕団としてこの推進委員に参加しています。奉仕団は武蔵野に13分団あって、いろいろなところに活動に行っているんです。ただ、奉仕団は個人で行っていらっしゃる方も多いです。また奉仕団はポイントでやっている訳ではなくて、あくまでも気持ち的にボランティアをしている。そのため、活動場所はなるべく奉仕団員と重ならないところがいいと考えています。ありがとうございました。

【委員】 2年間お世話になりました。私は民生委員の代表で出ております。民生委員でこの制度の対象になる65歳以上は3分の1ぐらいいるんですけれども、やはり民生委員の職業は忙しいものですから、私どもは地域の方々へのパイプ役として、支え合いポイントがありますから参加してくださいという広報役に徹しているのかなと思います。

また東部地域の施設の件ですけれども、本当に早く実現していただきたい。東部地域の方で、サポーターになっている方をほとんど耳にしません。やはりどうせするなら近場でできたらなと思いますので、東部地域の施設が実現できたらなと願っております。ありがとうございました。

【会長】 皆様ありがとうございました。2年間、ここで皆様と議論をさせていただきまして、私も非常に勉強になりました。この協議会では、ボランティアの方、受け入れ施設の方、そして、地域でこれまでご活躍されてきたさまざまな方々が参加し、そしてボランティアセンターの委員のような、ボランティアに関して非常に詳しい方が合わさって議論できる点、この点が非常に重要だったと思っています。当然ながら、同じボランティアといっても受け入れる側とやる側では全然見えることが違いますし、また似たようなボランティアをやっていても全然見え方が変わってくるんです。やはりこういったものを振興していくためには、いろいろな角度からの議論をまず集約していくこと、これが重要だと思っています。

2点目としては、本日冒頭に部長からもお話がありましたが、今どこでも地域福祉人材

が必要だと言われていました。インセンティブと言いますが、この制度はあくまできっかけにする仕組みにすぎない。還元と言っても非常に少ない額ですし、むしろきっかけをつくってもらってかかわり始める。その中でレベルをアップしたければどんどんレベルをアップすればいいし、また、これまで赤十字奉仕団でやってきていただいたように、思いが強ければ、この手帳は持っていたても、置いておいてもいいわけです。保険は大事なので入っておいたほうがいいかなと思うぐらいのことです。

そうすると、それぞれのかかわり方の入り口をどうつくっていくのかという点が非常に重要ですし、できるだけ入り口の間口を広げておくことの重要性をどう考えていくのかというのが、こういった制度、あるいは今後の地域福祉の人材を、特に武蔵野市のような都市の環境で広げていくための重要なポイントだと思っています。

今後ぜひさまざまな形でご意見をいただければと思っております。

5 閉会

【会長】 これにて武蔵野市シニア支え合いポイント制度推進協議会を閉会します。

(午前 11 時 36 分 閉会)